



令和7年度 府中市立府中第七中学校学校経営計画

府中市立府中第七中学校
校長 菅原 尚志

グローバル化に伴う地球規模の課題、AIの進化など急速な情報化の進展、少子化や人口減少など、社会の変化が複雑で予測困難な時代において、一人一人が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り開き、「持続可能な社会の創り手」になることを目指すという考え方が重要であるとされている。

本校では、府中市教育委員会の示す、これからの時代を生きていく児童・生徒に特に重視して育成を目指す資質・能力等を踏まえ、令和7年度の教育目標及び学校経営計画を次のとおり設定する。

＜義務教育9年間の系統的・継続的な取組により、特に重視して育成を目指す資質・能力＞

課題を発見し、課題解決に主体的に向き合い、自らの考えを形成するとともに
他者と協働しながら合意形成を図り、よりよい自己を実現する力

きづく

つなげる

たかめる

＜本市の教育活動において特に重視する視点＞

○発見すること

（意欲・好奇心・課題発見力等）

児童・生徒が、主体的に目標や課題を発見し、課題解決や自己実現に向けて見通しをもって、自主的・実践的に学ぶことができるようにする

○対話すること

（コミュニケーション力・多様性等）

児童・生徒が、多様な価値観を認め、考えを相互に伝え合い、合意形成を図ったり問題解決を図ったりできるようにする

○決定すること

（自己調整力・批判的思考力等）

児童・生徒が、課題解決や自己実現に向けて、集団や自己の状況を把握しながら調整し、方法・目的・結果等を決定できるようにする

○表現すること

（実行力・表現力・責任感等）

児童・生徒が、よりよい自己・集団・社会の実現に向けて、言葉や行動で表現できるようにする

＜本校の教育目標＞

◎自分で考える生徒

（進んで学び、学んだことを基に自ら考え協働して課題に取り組む生徒：「課題対応能力」）

○思いやりのある生徒

（優しい心をもち、自分も他人も大切にできる生徒：「人間関係形成・社会形成能力」）

○強い意志をもつ生徒

（社会に貢献しようとする強い意志をもつ生徒：「自己理解・自己管理能力」）

1 目指す学校像等

（1）目指す学校像

生徒・保護者が「府中七中の生徒でよかった」、地域の方が「府中七中を応援したい」と実感できる学校、生徒・保護者、地域から信頼される学校を目指す。また、教職員が「府中七中で働いてよかった」と実感できる学校を目指す。

①「学ぶ喜び」が実感できる学校

「わかった！」「できた！」「たのしい！」と生徒が感じ、生涯にわたって学び続けようという意欲にあふれる生徒を育てる。

②「関わり合う喜び」が実感できる学校

生徒同士、生徒と教師、さらには保護者や地域の人たちとの人間関係を深め、多様性を認め合いながら心豊かな生徒を育てる。

③「生きる喜び」が実感できる学校

安心・安全で、一人一人の生徒が認められ、将来の夢や希望をもち、よりよく生きる生徒を育てる。

(2) 目指す生徒像

- ①進んで学び、学んだことを基に自ら考え協働して課題に取り組む生徒
- ②優しい心を持ち、自分も他人も大切にする生徒
- ③社会に貢献しようとする強い意志をもつ生徒

(3) 目指す教師像

- ①生徒の学びを支援でき、授業改善を積極的に進める専門性の高い教師
- ②生徒・保護者・地域の願いに寄り添える協調性ある教師
- ③生徒を認め励まし、一人一人の望ましい自己実現に向けて支援できる教師
- ④教育公務員としての自覚を持ち、組織の一員として職務を遂行する教師

2 中期的目標と方策並びに重点目標

1	わかる喜び、できる喜び、学び続けることへの意欲を高めるために授業を工夫し、学力の向上を図る。	
<方策>		
・「個別最適な学び」「協働的な学び」の推進 ・生徒一人一人を大切にするきめ細かな指導 ・ICT 機器を効果的に活用した授業の実施		・小中で連携した学習規律の徹底と学習習慣の確立 ・読書活動の推進

〔重点目標〕

「わかった」「できた」「たのしい」が実感できる授業

- ①年度当初に徹底した授業規律の確立を図る。
- ②基礎・基本の確実な定着を図るため、繰り返し学習（既習内容の確認・活用を含む。）を基本としながら、体験的に学ばせること（操作・実験・対話・探求的な学び等）、個に応じた指導を充実させること（補充・発展等の課題の設定、eライブラリ等 ICT の活用等）、興味・関心・意欲を高めること（社会（日常）生活との関わり、題材の工夫等）などに配慮して学習内容や指導方法を工夫する。
- ③毎時間、「4つの視点」（発見すること、対話すること、決定すること、表現すること）を基にした授業の「ねらい」を明確に示すとともに、1時間の学習の見通しをもたせ、「まとめ」と「ふりかえり」の時間を設定する。
- ④「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行う。
- ⑤数学科、英語科において習熟度別少人数授業を実施し、生徒の学習状況に応じた、きめ細やかな学習指導を行う。同様に他教科でも個に応じた指導を行う。
- ⑥4月に「学習のてびき」を配布するとともに、学習計画表の取組などにより、家庭における学習習慣の
- ⑦評価計画を4月中に作成・配布し、生徒・保護者への丁寧な説明を行う。
- ⑧朝読書で、学年の発達段階に応じた選書が自らでき、読書に親しむ態度を育成する。
- ⑨各教科でICT機器の効果的に活用するとともに、課題や目的に応じて学校図書や新聞を活用するなど必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理し、発信・伝達する学習活動を行う。

2	様々な人との関わり合いを通して、自己肯定感を高め、思いやりのある生徒を育成する。	
<方策>		
・さわやかな挨拶のできる生徒の育成 ・居心地の良い学年、学級づくり ・人権教育・道徳教育の推進		・一人一人を大切にする指導の充実、ほめる教育 ・いじめ0を目指して、いじめを起こさせない環境づくり、早期発見、早期対応、事後サポート体制の徹底

〔重点目標〕

人権尊重の理念を基礎とし、温かな人間関係づくりを進める。(学習指導、道徳教育)

- ①全ての教育活動を通じて、自他の生命を大切にする心や、互いに認め合い思いやる心を育成する。

- ②道徳教育推進教師を中心に全体計画に基づく道徳的实践及び指導の充実を図る。
- ③全教員で道徳の授業を実施する。
- ④「考える道徳」「議論する道徳」への授業改善を図る。
- ⑤道徳授業地区公開講座において、全ての学級で「郷土府中に根ざした道徳資料集」を活用した道徳の授業を実施する。

生徒一人一人を大切に、安全・安心な教育環境をつくる。(生活指導、特別支援教育)

- ①生徒の自己肯定感、自尊感情を高める諸活動を意図的・計画的に立てる。
- ②教職員が率先して、生徒に「おはよう」「こんにちは」「さようなら」の声掛けをし、気持ちの良い挨拶ができる生徒を育成する。
- ③教員一人一人が積極的に生徒に声掛けをするとともに、休み時間なども生徒の様子をよく観察することで子供たちの安全を確保するとともに、子供の些細な変化も見逃さないようにする。
- ④「学校いじめ防止等対策基本方針」「いじめ防止等対策方針細目」に基づき、「いじめは絶対に許されない」という基本認識を徹底し、学校・家庭・地域・教育委員会と一体となって、いじめの未然防止、早期発見、早期対応、早期解決に取り組む。
- ⑤支援の必要な生徒や不登校の生徒などについて、校内委員会において、具体的な対応等を検討し、安心して授業に参加できるようにする。また、校内のサポートルームを効果的に活用するとともに、関係諸機関との連携も図る。
- ⑥生徒に様々な困難やストレスへの対処方法や、SOS の出し方を身に付けさせるとともに、心の保持に係る教育を推進する。また、長期休業前後の相談体制を確立し、家庭・地域と連携した見守り体制を構築する。
- ⑦タブレット端末を活用した「心の天気予報」を行い、生徒の状況等を速やかに把握するとともに、生徒一人一人に応じた支援・対応により、不登校やいじめ等の早期発見及び早期対応を図る。
- ⑧「SNS 東京ノート」の活用、関係諸機関と連携したセーフティ教室の実施を通して、SNS の正しい知識やモラルについての指導を徹底する。

3	生きる喜びを感じ、夢や希望を抱いて自信をもって卒業できる生徒を育成する。
<方策> ・生徒主体の学校行事や生徒会活動の充実と推進 ・地域活動やボランティア活動の推進	・堂々と夢を語れる生徒の育成 ・キャリア教育の充実

〔重点目標〕

一人一人が活躍できる場の設定(特別活動)

- ①学級活動における話し合い活動を意図的に設定する。
- ②生徒会が企画したボランティア活動や挨拶運動などに生徒一人一人が主体的に取り組むようにするなど、生徒会活動を充実させる。
- ③学校行事や生徒会活動などにおいて、生徒主体の体験的な活動を充実させ、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育成する。また、自己を生かす能力や集団への所属感・連帯感を育む。
- ④部活動において、顧問の教員、指導者の適切な指導により、生徒の資質・能力の伸長を図るとともに、顧問と生徒、生徒同士の信頼関係を深める。また、部活動の実施に当たっては、健全なリーダーシップをとれる生徒を意図的に育成するとともに、保護者に部活動の意義等を理解していただくとともに、学校と保護者が協力し合う部活動にする。

夢や希望をもてるキャリア教育(進路指導)

- ① 3年間を見通したキャリア教育の系統的な指導を行う。
- ② ハローワークや地域の人材、高校の教員など、外部人材等を活用した取組を年2回以上実施する。
- ③ トップチーム等との連携や、地域人材等の外部講師を活用したキャリア教育・進路指導の充実

4	その他
＜方策＞ ・府中第七小学校、武蔵台小学校との連携 ・「ふるさと府中」の未来を支える生徒を育てる取組	・保護者、地域との連携

〔重点目標〕

小・中連携の推進

- ① 校区における目指す子供像と育成すべき力を共有し、発達の段階に応じて学習に取り組む心構えや態度について共通して指導するなど、義務教育9年間の系統性と連続性のある指導の充実を図る。
- ② 生徒による挨拶運動など小中連携の取組を充実させるとともに、「府中市教育委員会 防災の日」に小学校と連携した引き渡し訓練を実施する。

「ふるさと府中」の未来を支える生徒の育成

- ① 令和6年度の市制施行70周年を契機にした取組を生かし、「未来へつなぐ府中 2020 レガシー」の取組を充実させるとともに、その取組を通じて府中市の未来について考えさせ、「ふるさと府中」に誇りをもち、未来を支える生徒を育成する。
- ② 各学年で「世界とつながる英語 Enjoy Week」を設定し、英語でコミュニケーションを図る活動に取り組むとともに、異なる文化をもつ人々への理解や、伝統・文化に対する理解を深め、日本人としての誇りをもち、「ふるさと府中」や日本の良さを発信する能力や態度を育成する。
- ③ 「東京 2025 デフリンピック」の開催を契機に「手話」に関する取組を実施するなど障害者理解を推進し、障害に限らず、同じ社会に生きる人間として、多様性を認め合える生徒を育成する。

保護者・地域との連携の推進

- ① スクール・コミュニティ協議会の充実を図り、地域の教育力を活用して教育活動を充実させる。学校の自己点検及び自己評価を年2回行い、保護者・地域への説明責任・結果責任を果たす。
- ② 青少年対策第7地区委員会と連携し、教職員と生徒がスポーツや文化活動、地域行事などに年1回以上積極的に参加する。